

伊丹市立学校園における アレルギー対応マニュアル (3訂版)



平成30年(2018年)12月

伊丹市教育委員会

はじめに

近年、子どもたちを取り巻く生活環境や社会環境の急激な変化に伴い、全国的に食物をはじめとするアレルギーを有する子どもが増加・多様化しております。

そのような中、平成24年12月に東京都調布市で、学校給食後に食物アレルギーによるアナフィラキシーショックの疑いにより児童が亡くなるという事故が発生しました。

文部科学省では、こうした事故を二度と起こさないよう、平成25年5月に「学校給食における食物アレルギー調査研究協議者会議」が設置され、翌年3月に最終報告がとりまとめられました。

また、平成27年3月には、文部科学省により「学校給食における食物アレルギー対応指針」が、平成29年3月には、兵庫県教育委員会により「学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル(平成28年度改訂)」が策定され、アレルギー対応を組織的に行うことや、医師の診断に基づくこと、安全性を最優先とすることなどが新たに示されました。

このことを受け、本市では、アレルギーを有する幼児児童生徒が、安全・安心な学校園生活を送ることができるよう、医療・消防・学校関係者等から成る「アレルギー対策委員会」を設置し、平成27年2月に「伊丹市立学校園におけるアレルギー対応マニュアル」を、また、同年12月に「伊丹市立学校園におけるアレルギー対応マニュアル(改訂版)」を策定しました。

このような中、平成29年6月から中学校給食が開始され、小中学校ともに「アレルギー対応食(「卵」除去食)」の提供を開始したことに伴い、本マニュアルの改訂を行いました。

各学校園においては、本マニュアルを効果的に活用し、アレルギーを有する幼児児童生徒に適切に対応するとともに、保護者や主治医・学校医との連携を図るなどの取組を進めていただきたいと思います。

終わりに、本マニュアルの改訂にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

平成30年12月

伊丹市教育長 木下 誠

【目 次】

1	学校園生活におけるアレルギー対応の基本方針と実施基準	1
2	アレルギーに関する基礎知識	2
	①アレルギーの原因とは？	2
	②アレルギーの症状とは？	3
	③アレルギーの現れ方とは？	3
	④主なアレルギーとは？	4
	〔 ぜん息 / アトピー性皮膚炎 / アレルギー性結膜炎 アレルギー性鼻炎 / 食物アレルギー（食物アレルギーの病型）	
	⑤特に危険な症状のものとは？	6
	・アナフィラキシー ・アナフィラキシーショック （喉頭浮腫）（アナフィラキシーの主な症状）	
3	アレルギーに係る事故等の未然防止に向けて	7
	①校園内体制の整備	7
	〔 校園内アレルギー対策委員会の設置〔モデル〕 教職員等の役割〔モデル〕／教職員等の主な役割の詳細〔モデル〕 アレルギー対応に関する流れ / アレルギー対応の解除に関する流れ アレルギーの種類に応じた進め方 面談の進め方 医療機関の受診について	
	②学校園生活での対応について	15
	〔 アレルギーと関連の深い学校園での活動 学校園生活における具体的な対応方法	
	③学校給食における食物アレルギーの対応方法と手順	18
	〔 学校給食の段階別アレルギー対応 学校給食のアレルギー対応の流れ 除去食提供についての流れ（準備・対応）	
	④アレルギーに関する教職員への研修のあり方	22
	⑤幼児児童生徒への指導方法（啓発参考資料）	23
4	アレルギー発症時の緊急時対応について	24
	①緊急時対応に関する準備	24
	〔 消防局との連携	
	②緊急時における教職員の役割分担〔モデル〕	25
	③救急車の要請と要請後の動き	26
	〔 119番通報 / 要請後の動き	
	④症状のレベルによる対応	27
	⑤緊急時処方薬の取り扱い	28
	〔 内服薬（抗ヒスタミン薬、ステロイド薬）、吸入薬 アドレナリン自己注射薬（商品名「エピペン®」）	
	⑥アレルギー発症時の緊急時対応マニュアル	30
■	参考資料	31
■	参考文献	35

1 学校園生活におけるアレルギー対応の基本方針と実施基準

【学校園生活におけるアレルギー対応基本方針】

アレルギーを有する幼児児童生徒が健康で安全な環境で活動できるよう、学校園生活全体を通して、アレルギーの症状を誘発したり悪化させる要因がないか検討を進めるとともに、アレルギーへの予防対策に万全を期することが求められています。

中でも、発症するアレルギー中で最も多い「食物アレルギー」に対しては配慮が必要となります。

特に、学校給食においては、「児童生徒の学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと〔学校給食法（第2条第3項）〕を目的とし、当該学校に在籍するすべての児童生徒に対し実施されるもの〔学校給食実施基準（第1条）〕とされており、その実施に当たっては、児童生徒の個々の健康及び生活活動等の実態並びに地域の実情等に配慮する〔学校給食実施基準（第3条）〕ことが求められています。

しかしその一方で、安全性を最優先に考えた給食提供が行われなければならない〔今後の学校給食における食物アレルギー対応について最終報告（Ⅱ-3-2）-e〕とされております。また、校内委員会を設置し組織的に対応することや学校生活管理指導表に基づいた面談を実施したうえで個別対応プランを作成すること、症状の重い児童生徒に対する支援の重点化を図ること等〔今後の学校給食における食物アレルギー対応について（文部科学省通知）〕が示されており、食物アレルギーに関してマニュアル等に基づく対応の徹底が必要不可欠です。

これらのことから、学校園の状況とアレルギーを有する幼児児童生徒の実態（重症度や人数、アレルゲン等）を総合的に判断し、現状で安全に行うことのできる最良の策を検討し、学校園生活におけるアレルギー対応を実施します。

【学校園生活におけるアレルギー対応実施基準】

- ①医師の診断・検査によりアレルギーと診断され、特定の物質に対して対応の指示があること。
- ②「学校生活管理指導表」、または、それに準じた診断書等が提出されていること。
- ③原則として1年に1回は医療機関を受診していること。
- ④家庭でも医師から指示された対応を行っていること。

2 アレルギーに関する基礎知識

アレルギーとは、本来人間の体にとって有益な反応である免疫反応が、体内に入ってきた異物（アレルゲン）に対し過剰に反応しすぎて、自分自身を傷つけてしまうときに用いられる言葉です。

アレルギーには、気管支ぜん息（以下、ぜん息）、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、アレルギー性鼻炎、食物アレルギー、アナフィラキシーなどの疾患や反応があります。

特に、ぜん息や食物アレルギーが原因となって起こるアナフィラキシーは、場合によっては生命に関わることもあるため、学校において適切かつ迅速な対応が求められます。

①アレルギーの原因とは？

アレルギーを引き起こす物質（アレルゲン）には、いろいろなものがあります。アレルゲンは、体内に入る経路により、次の4つに分けられます。

経 路	主な物質
食物によるアレルギー （口や消化管から） 	そば・卵・牛乳など 
吸入によるアレルギー （鼻や気管支から） 	ダニ・カビ・花粉など 
接触によるアレルギー （皮膚や粘膜から） 	うるし・ラテックス（天然ゴム）・動物の毛など 
薬物によるアレルギー 	ペニシリン・ピリンなど 

※実際には、一つの物質が、いくつかの違った経路から体内に入りアレルギー反応を起こすことがあります。

また、蜂毒などのように直接体内に入る場合もあり、早く症状が出る傾向があります。



②アレルギーの症状とは？

アレルギー反応の結果、引き起こされる症状には、いろいろなものがあります。症状が現れる場所により、次のように分けられます。

多い 症状の頻度 少ない	皮膚	じんましん、かゆみ、赤み など	
	粘膜	くちびる・舌・口の中の腫れ、 まぶたの腫れ など	
	消化器	腹痛、吐き気、嘔吐、下痢 など	
	呼吸器	息切れ、咳、呼吸音 (ゼーゼー、ヒューヒュー) など	
	全身	血圧低下、倒れる(意識障害)、 失禁する など	

③アレルギーの現れ方とは？

原因となる物質（アレルゲン）と接触（食べる・吸い込む・触るなど）してから症状が現れるまでの時間は、次のように分けられます。

即時型	数分以内から起こり、遅くとも2時間までに症状が現れます。
遅発型	6～8時間後に、症状が現れます。
遅延型	24～48時間後に、症状が現れます。
二相性	即時型に続き、一度落ち着いてきた症状が、半日後に再び悪化することがあります。



④主なアレルギーとは？

ぜん息

肺や気道に入ったアレルギー（ダニやハウスダスト、カビ、動物の毛など）に対するアレルギー性炎症により、発作性のせきや呼吸音（ゼーゼー・ヒューヒュー）を伴う呼吸困難を繰り返す疾患です。学校行事などで日常生活のリズムが乱れたときに生じやすく、運動（特に冬季の長距離走など）で発作が誘発される場合もあります。



アトピー性皮膚炎

かゆみのある湿疹が顔や関節付近などを中心に現れ、長く続きます。アトピー性皮膚炎の人の皮膚は、刺激に対して敏感で、乾燥しやすい特徴があります。ダニやカビ、動物の毛や食物などに対するアレルギーが原因となる場合があります。また、汗やプールの塩素、洗剤、生活のリズムの乱れや心理的ストレス等が皮膚炎を悪化させる誘因となることが知られています。



アレルギー性結膜炎

目に入ったアレルギー（花粉やダニ、ハウスダスト、動物の毛など）に対するアレルギー反応によって起きる目のかゆみ、異物感、なみだ目、目やになどの症状を特徴とする疾患です。予防には、スギやハウスダストなどのアレルギー反応の原因となるアレルギーの除去や回避が原則です。



アレルギー性鼻炎

鼻に入ったアレルギー（花粉やダニ、ハウスダスト、動物の毛など）に対するアレルギー反応によって、発作的・反復性のくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどの症状を引き起こす疾患です。（予防はアレルギー性結膜炎と同じ）



食物アレルギー

アレルギー体質となった特定の食物（食物アレルギー）を摂取することによって、アレルギー反応が皮膚・呼吸器・消化器あるいは全身に生じるものをいいます。原因食物は多岐にわたり、学童期では鶏卵、乳製品だけで全体の約半数を占めますが、実際に学校給食で起きた食物アレルギー発症事例の原因食物は甲殻類（エビ・カニ）や果物（特にキウイフルーツ）が多くなっています。

症状はじんましんのような軽い症状からアナフィラキシーショックのような命にかかわる重い症状まで様々です。注意すべきは、食物アレルギーの約10%がアナフィラキシーショックまで進んでいる点です。

「原因となる食物を摂取しないこと」が唯一の予防法です。



※食物アレルギーの病型

食物アレルギーは大きく3つの病型に分類されます。食物アレルギーの病型を知ること、万一の時に、どのような症状を示すかをある程度予測することができます。

即時型	食物アレルギーの児童生徒のほとんどはこの病型に分類されます。原因物質を食べて2時間以内に症状が出現し、その症状はじんましんのような軽い症状から、生命の危機を伴うアナフィラキシーショックに進行するものまで様々です。
口腔アレルギー症候群	果物や野菜、木の実類に対するアレルギーに多い病型で、食後5分以内に口腔内（口の中）の症状（のどのかゆみ、ヒリヒリする、イガイガする、腫れぼったいなど）が出現します。多くは局所の症状だけで回復に向かいますが、5%程度は全身的な症状に進むことがあるため、注意が必要です。
食物依存性運動誘発アナフィラキシー	多くの場合、原因となる食物を摂取して2時間以内に一定量の運動（昼休みの遊び、体育や部活動など）をすることによりアナフィラキシー症状を起こすものをいいます。発症した場合にはじんましんから始まり、高頻度で呼吸困難やショック症状のような重篤な症状に至るので注意が必要です。原因食物の摂取と運動との組み合わせで発症するため、食べただけ、運動しただけでは症状は起きません。

※食物アレルギーに関しては、生命に危機を及ぼす危険な状態として、特に喉頭浮腫とアナフィラキシーショックに対する認識が必要です。



⑤特に危険な症状のものは？

アナフィラキシー

アレルギー反応によって、じんましんなどの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、ゼーゼー、ヒューヒューなどの呼吸音・呼吸困難などの症状が複数同時に、かつ急激に出現した状態をいいます。

また、アナフィラキシーは、アレルギー反応によらず、運動や物理的な刺激によって起こる場合があることも知られています。

意識の障害などが見られる場合は、足を頭より高く上げた体位で寝かせ、嘔吐に備え顔を横に向け、必要に応じ一次救命処置を行い、速やかに医療機関に搬送する必要があります。アドレナリン自己注射薬（商品名「エピペン®」）を携行している場合には、できるだけ早期に注射することが効果的です。

アナフィラキシーショック

アナフィラキシーの中でも、血圧が低下して意識の低下や脱力を来たような場合を、特にアナフィラキシーショックと呼び、直ちに対応しないと生命にかかわる重篤な状態です。

※喉頭浮腫

強いアレルギー反応によって、喉頭（声帯付近）を中心とした上気道組織がむくみ（浮腫）を来たすことがあります。これを「喉頭浮腫」と呼び、窒息につながる大変危険な状態です。

喉頭はもともと内腔が狭いのですが、この部分に浮腫ができると、犬の遠吠えのような咳込みが見られ、声がかすれ、ひどくなると声が出なくなります。のどが締め付けられるように感じ、狭窄の程度に応じて、呼吸困難が起こってきます。

症状が悪化すると、息を吸い込む時にゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音が聞かれ、首や胸の軟らかい部分がベコベコへこむ陥没呼吸が見られます。その状態が進行すると窒息の危険がありますので、上記のような呼吸音が聞こえた時は緊急対応が必要です。

運動誘発 アナフィラキシー	特定もしくは不特定の運動を行うことで誘発されるアナフィラキシーのことをいいます。食物依存性運動誘発アナフィラキシーと違い、食事との関連はありません。
------------------	--

※アナフィラキシーの主な症状

1	軽い症状	じんましん、皮膚のかゆみ、目のかゆみ、口腔内のかゆみ なんとなく気分が悪い 等
2	重篤な症状 (特に注意すべき症状)	呼吸困難（ゼーゼーして苦しい、胸が苦しい、のどが詰まった感じ 等） 血圧低下症状（めまい、吐き気、手足が冷たくなる、倒れこむ 等） 意識障害（呼びかけに受け答えがはっきりできない、失禁 等）